

ひろば大代

NO. 181

大代公民館

町活性化の疎外要因

運営委員 谷口 浩

人口減少と高齢化が進むにつれ、地域の活性化が叫ばれて久しい。「町おこし」の名のもと、それぞれの市町村において様々な取り組みがなされているが、果たしてどれだけ成果をあげているのだろうか。「町おこし」には各種イベントをはじめ、特産品販売、老人福祉施設・コミュニティセンターなどの建設等いろいろある。これらの中には半ば形が美化したものもあるように思えてならない。

そこで大代町の活性化を考えると何をすべきかという問題になると非常に難しい。しかし、今後取り組んでいく上で疎外要因となる問題点がいくつかあると思う。

一つには民主主義のルールを無視する人がいること。個人的な考えだけで事を運ぶのでは誰もついていけないの

は当然の事です。皆で話し合い、決まったことには従うという基本的なことが必要になります。二つ目は、世代間の相互理解が欠けていること。三つ目にチャレンジ精神が乏しいこと。特に若い人に注文したいことの一つです。誰しも最初からうまく出来る訳がないので、逃げずに挑戦することも必要ではないでしょうか。

以上三点が自分なりに感じることですが、少なくともこの三点がクリア出来れば活性化への道筋も見えてくるように思われる。



「体協だより」

体協大代支部会長 横手昌則

例年にならない暑さが続き、水不足に悩まされておりますが、町民の皆様には体協活動に対して格別のご理解ご協力を賜り心より厚く御礼申し上げます。

さて、中間報告と言うほどでもないのですが、六月四日(土)夜中学校体育館で町民綱引き大会を実施しました。初めての試みで準備不足、研究不足でしたが、盛り上がりだけは最高だった

と思います。

七月十七日(日)第四回高山地区親善相撲大会を開催しました。お日さまが昇ると、うだるような暑さの中でチッコ力士たちはよく頑張りました。

※大代小のみの成績

低学年の部 チーム名省略 敬称略

団体 準優勝 原田、岡田

個人 三位 永井亜紀子

中学年の部

団体 三位 横、武田、岡田

個人 三位 谷口将人

高学年の部

団体 三位、田中、佐藤、下垣

個人 惜しくも入賞者なし

これからお盆が過ぎ、稲の刈り入れが始まると今度は運動会です。皆様の尚一層のご協力をお願い致します。

新屋盆踊りの復活と

保存会結成について

公民館 渡 吉正

盆踊りが盛んであったのは近代では明治の後期から昭和二十四、五年の頃までであった様だと記憶しています。明治四十年(一九〇七)五月二十九

日、東宮殿下（大正天皇）が大家村立尋常高等学校の御便殿へ御泊まりになった宵のことです。私の祖父母たちが紋付姿で踊り、校庭を三廻したところ殿下は巻煙草をくよらせながら「もう一廻りして」と指図されたというエピソードが残っています。

それから父が八か村の連合青年団長だった昭和五、六年（一九三〇〜三一）頃は近郷近在の村々から青年男女がわんさと押しかけ踊りは大変な賑やかさだったようです。

戦後、昭和二四、五年（一九四九〜五〇）は物資が不足して、何の楽しみもなかった頃で密造のどぶ酒を飲んで朝まで踊り明かした時代でした。その頃、叔父敏昭が青年団長で井田の願林寺や竜蔵寺まで踊りに出掛け、時の青年団の女子部は浄土寺の寿恵さん、店今田の敦子さん、それに重元幹子さん（故花田先生）など、そう／＼たるメンバーでした。

その頃の盆踊りは大家地区は町場三町内の道路で行われていました。屋台の上に番傘を広げて左手に酒の入った茶碗をかかえて、口説き上手は柿田の

故石川忠市さんや川上の故渡井義雄さん、そして紅一点で下市の渡井ソモさんが美声を張り伴奏には三味線や笛なども加わって、踊りの輪は二重三重にもなり八月いっぱい地蔵盆まで続けられていました。

当時は仮装大会も盛大に行われ、私も小学校時代には家で支度してもらい踊りに出て二等や三等を度々もらっていたことなどを思い出します。

私が公民館主事だった昭和四二〜三年（一九六七〜六八）には保存会を再編成して、小学校（八反田）校庭で大家と新屋の盆踊りを両立させて大好評であったことを思い出します。私はその時は審査員と世話役を兼ねた上に踊りに與じたものでした。

今年の七月中旬に山田集会所へお邪魔して新屋の盆踊りの復活の話を出した処、年配の方々は皆賛成して下さいました。大代町の活性化のためにも是非、新屋の盆踊りを復活させて下さい。

婦人会と青年の会が先頭に立って踊りの輪を広げて頂きたいと思います。そして「盆踊り保存会」を結成して、童から塾年層まで輪に入って踊りを充

分に堪能するまで謳歌して下さい。きっと先祖の供養にもなり、人の和も広がって行くことと思います。

田植囃子（短歌）

松江市 小野寺仁子

山狭の田植囃子の行列の

近づく音す風通る時

紫の袴の裾をひるがえし

太鼓打ち鳴らす中学生徒

花笠の下のほお赤く汗ばみて

ふさのばち振る足踏んばりて

早乙女の列しらずと行列の

後方に続く赤き裾出し

音頭取る少年の声に唱和して

掛合いのごと田植囃子歌

影深き杉木立の中奉納の

田植囃子の衣装ひしめく

中学の田植囃子を見守りて

地区の人々こぞりて集う

—大代の史跡をたずねて—

八幡宮と長安寺（下市の巻）

植松 渡 吉正



八幡宮の境内は子供の頃は格好の遊び場でした。石段の参道を挟んで左側に相撲場が設けられていて、相撲は盛んでした。小学校時代は戦時中だったので遊びも「兵隊ごっこ」に「陣とり」「國とり」など戦時色の濃いものでした。当時、参道右側（現在、藤田家住宅）は石造りの橋が架った池があるお庭でした。神苑地（お宮境内）は明治三十九年（一九〇六）に私の曾祖父渡淳二郎が寄進したという石塔が左側の境内地に建っています。

拜殿は明治二十五年（一八九二）に市原寧三郎氏（本市原のご当主宗氏の曾祖父）が建設されました。その記念の石碑が境内恵比須社前に建てられています。

八幡宮のご祭神は玉依姫命（初代神武天皇の御生母タマヨリヒメノミコト）～神宮功后（十四代仲哀天皇の御后で応神天皇の御生母オキナガタラシヒメノミコト）、応神天皇（十五代天皇ホムダワケノミコト）の三柱の神をお祀りしてあります。

本殿に向かって左側高台の末社は春日神社と巖島神社（御祭神はイチキシ

マヒメノミコト）が合祀されており、また石段下には祖霊社がお祀りしてあります。

八幡宮の創建は天文三年（一五三四）でその歴史は棟札五十一枚と大杉三株にそのまま伝えられ（いづれも大田市指定文化財）ています。

八幡宮の裏手に臨濟宗の神護山長安寺があります。本山は京都の東福寺です。長安寺はもと天台宗の道場でした。

ご本尊は薬師如来で開山は石州大守法広院禪師で鎌倉時代文永二年（一二六五）に創立したと伝えられています。室町時代天文三年からは長安寺は八幡宮の別当（八幡宮に設けられた神宮寺）として旧九月二十三日の秋の例大祭には必ず御神幸式の行列に出席したと伝えられています。

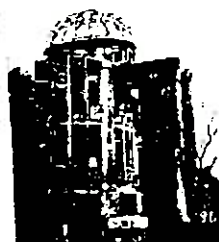
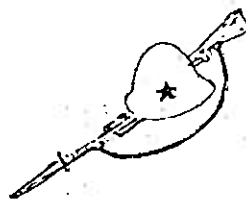
他に長安寺の本尊を護る十二神将が仏壇に安置してありましたが、心ない者のために他へ売却されたことは返す／＼も残念な事でした。

本堂は文化十三年（一一八六）に再建されていましたが、長い間の風雪で崩壊したため昭和四十四年秋に法丈の

棟続きに御堂を設えて今日に至っています。春ともなれば境内に植樹された十本の桜が開花し、酒宴が開かれます。

戦争体験記

上市 後藤マサエ



女学校の前の道を兵隊さんが三瓶へ行進して行かれる靴の音。ザクザクと聞こえてくると勉強どころではありません。みんな窓際に行って手を振って見送ったものです。日によってはこのような事が何回もありました。

服装も今思えばステキ？ステキ！上はセーラー服下はモンペに赤い鼻緒の下駄ばきで布のランドセルという通学スタイルでした。

浜田の小学校に勤めていた頃、自分で作る弁当は「ザブ／＼のおかゆ」に「だんご」。昼には少々固まって歯ごたえがあり、おいしかった。

下宿のおばさんから「ぬかだんご」

「かぼちゃだんご」をいただいたことなどおいしかったし、嬉しかったです。登下校の挨拶も戦闘帽をかぶり、敬礼をしたもので、手首の角度がむつかしく練習したものです。下駄ばきです。学校の校庭は全部畑にして、さつまいもにばれいしょなど作ったのですが、今の勤労学習です。

山のつわぶきを取りに行き、駅のホテルで荷づくりし、汽車につみこんだことや砂浜で塩づくりしたことなど、あの頃の子供も大人もよくやったものです。

私は娘のころ結核で要注意でした。元氣な友達はみんな山口県光工場へ動員で行きました。要注意の私は行かれず、少々恥ずかしい思いをしたものです。しかし、今日まで生かされた私。自分なりに生き抜き、平和な今を感謝したい気持ちでいっぱいです。

終戦時浜田聯隊

軍旗奉焼について

椿 吉本 登

終戦以来、四十九年を経過し、今そ

の当時を回顧して見る。

終戦時浜田歩兵第二十一聯隊は陸軍部隊で、最前線の現在のオーストラリア（濠州）西北方四百料のアル諸島トランガン島ドカバラに駐屯していた。師団指令部は、後方セラム島、ビルにあつて此の島に於て奉焼（焼き上げ）られたり、その当時の状況を先輩、金城町出身の関本益夫様の記事を許可を得て掲載致します。

終戦の日八月十五日の夜「聯隊長緊急師団指令部（セラム島ビル）に出頭せられたし」の電話により直ちに聯隊長のお供して出発した。不吉な予感は聯隊長の胸中密かにあつたようである。十八日八時頃、師団指令部に到着。指令部には幕僚及び部隊長級全員集合し、師団先任の大佐、佐々木聯隊長の到着を待ちわびていたらしく直ちに会議が開かれた。無条件降伏の陛下のご放送があつた事、師団長閣下の自決された事を確認する。

軍旗を奉ずる聯隊長として長く指令部に止まる事もできない参謀長に事後の指令命令を一任して十八日、今度は陸路聯隊へ急いだ。

明けて十九日朝、将校会議が開かれ、聯隊長から陛下のご放送があり、無条件降伏をせられたこと伝えられた。次に軍旗奉焼をいかにして実施するか協議するように命じられる。

一、部隊の動揺を防ぐため幹部だけで実施する。

二、幹部と下士官兵の代表者だけで実施する。

三、部隊全員で実施する。

以上、三案が提出され答申が始められる事になった。（中略）

三師副官石田中尉が立ち上がり第一案を力説する。思えば日清、日露、以来数々の戦役に事変に今次大東亞戦にいたるまで、この浜田歩兵第二十一聯隊の竿頭に神靈を結集し生命を捧げて國家を護つた祖父、父、兄弟の靈前に軍旗の焼還を何と報告するか、現在旗下で忠勤を励む第二十一聯隊の生ける将兵全員にその義務があるのでは。と、あれこれ浮かび胸も腹も張り裂けんばかり、第一案と第三案の真正面からの対立である。

アル島防衛に玉砕を期して今日に及んだ。将兵にとって玉砕と同じ運命と

いおうか静なる玉碎のこの期に及んで部下の統率に自信がないのか幹部だけで、奉焼しようとは恥ずかしい限りではないか。聯隊長は黙って聞いておられたが、一言も語られず、山小屋の兵舎の中は声一つなく時間が過ぎていった。支那事変(日中戦争)当時の精銳は少なく...と判断されたのだろうか。

「第二案と決定する」と指示された。昭和二十年八月二十日は、血涙を流した静かなる軍旗祭であった。

原住民の部隊宿舎及び奉焼位置付近の通行は、全部禁止して状況秘密に上の高台に集合した。一般は兵舎内において旗手。川口中尉の捧ずる歩兵第二十一聯隊旗に対して最後のお見送りと黙とうを捧げたのである。

奉焼場はセラム島の東西に連なる山々が一望に眺められ、南にアラフラ海を見下す台地である。奉焼式が始まり北に向かい聯隊長、佐々木慶雄大佐の手から聖台上に軍旗をお返しする。

聯隊歌合唱は歌にならず、おえつの声流れるのみ。此の状況は筆では書き著すことはできない。

聯隊長の眼は異常に見え、顔も別人に見える。竿頭に破甲爆雷の装填を命ぜられる。約一米掘り下げた壕の中に入られ、聯隊長の点火命令によって爆発音と共に竿頭は片鱗も残さず爆破せられたのである。

布地と竿はドラム缶に入れられ完全に焼却された。立つ煙りは護国の一念に燃えた先輩の霊と共に北へ北へと流れていった。灰は竿頭を爆破した壕に入れて埋没し、北の方遠き東京に手を合わせて終末をした。 —後略—

「交通安全法令特別教室」について

大代交安協会長 市原仁郎

今まで毎年六月末に開催しておりました表記特別教室は道路交通法の改正により、廃止になりましたのでお知らせ致します。今後は更新時に大田警察へ出向き、そこで講習を受けることとなります。

◎子供の遊び場のお知らせ
大代公民館では昨年に続き、島根県

共同募金会と市社会福祉協議会の子供の遊び場事業で七月十六日公民館広場にブランコ一基を設置していただきました。遊動円木、ブランコと楽しく遊べる遊具ができましたので、どうぞ気軽に親子で遊びにおいで下さい。

*** 八月行事予定 ***

◆9日(火)盆踊り練習会

◆15日(月)第九回 都市交流会

朝六時(イ)イベントがありますので皆様方のご参加ご協力をお願い致します。

◆26日(金)ダイヤゾーンボール教室

★—★おしらせ★—★

◎大代公民館から

婦人会の椿支部の皆さん

// ひまわりグループ

// つくしグループ

// さわやかグループ

の方々により、公民館の清掃奉仕、草取り、座ぶとんカバーの洗濯等して頂き大変きれいになりました。厚く御礼申し上げます。

福岡県 奥田房市様より

金一封の御厚志を頂きました。厚く御礼申し上げます。

